



平成28年度

まちにぎワークショップ成果報告

— 概要版 —



平成29年 2月



ものづくり大学大学院 田尻研究室

1 | 5ヵ年事業に至る経緯

◎ 事業策定背景

近年の行田市を取り巻く急激な変化に対応するため、平成23年度から平成32年度までの10ヵ年にわたる計画①第5次行田市総合振興計画が策定されました。

平成25年度には様々な社会的問題や地域問題に対応するため、長期的なまちづくりの方針となる②行田市都市計画マスタープランが策定されました。

同年、マスタープランを景観的な側面から実現するため、③景観まちづくりワークショップにより、秩父鉄道行田市駅周辺地区に集積する歴史的建造物があるエリア（モデル地区）を対象とした市民の意見からまち並みとにぎわいに関する問題点を抽出し、それを基に平成26年度には④行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画が策定されました。さらに、同年で開催された⑤まちなみにぎわいワークショップでは、モデル地区の中でも特に重点整備検討地区とされる、蓮華寺通りと北谷通りのハード・ソフト面についてまちづくり方針を定めました。

それらの事業や計画から、⑥秩父鉄道行田市駅周辺地区 都市再生整備計画により平成27年度から5ヵ年にわたるハード・ソフト整備を行っています。

年度	実施事業と計画の流れ
23	① 第5次行田市総合振興計画
25	② 行田市都市計画マスタープラン ③ 景観まちづくりワークショップ
26	④ 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画 ⑤ まちなみにぎわいワークショップ
27	⑥ 秩父鉄道行田市駅周辺地区 都市再生整備計画

ハード整備

- モデル地区の整備
- 歴史的街路整備事業
- 文化ゾーン整備事業
- 観光案内所整備事業
- 街なかサイン整備事業

ソフト施策

- まちづくりの仕組みづくりと取組みに対する支援
- 地域まちづくり活動支援事業（まちにぎワークショップ）

※5ヵ年事業に至る経緯



※平成27年度まちにぎワークショップの様子

【まちにぎワークショップ支援業務事業並びに行田市民と来訪者の調査研究 報告書】

事業主体	行田市：都市整備部都市計画課 生涯学習部文化財保護課 建設部道路治水課	環境経済部商工観光課 総合政策部企画政策課
事業協力	ものづくり大学 大学院 田尻研究室	
担当 (五十音順)	教員：田尻 要 大学院生：小野 貴裕 早川 征太 学部生：安住 香朱美 小林 太郎 多門 みさき 永田 翼 望月 賛仁	守家 和志 木村 奏太 早川 大守 新井 達也 齋藤 要 鳥居 和樹 原 怜也 本山 皇 千葉 貢 東恩納 暖 大滝 祥太 佐野 光洋 中村 公亮 福山 達哉 長澤 聖人 笠原 洋介 田川 俊樹 長嶋 聖也 本間 貴大
取りまとめ	教授：田尻 要 訪問研究員：守家 和志	大学院生：長澤 聖人



2 | 5カ年事業の概要

◎ 背景と目的

まちにぎワークショップは行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画の実施計画である「秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画」のソフト事業として、平成27年度から平成31年度までの5カ年継続して行い、行田市のまちづくりに必要なことを行政視点ではなく市民視点で検討し、最終的には市民主体によるまちづくり組織の設置・運営を目的としています。

また同時に、ワークショップの参考情報にするとともに行田市のまちづくりへ活用することを目的として市民意識調査を初年・中間・最終年度で、来訪者意識調査を通年で実施予定です。

◎ 5カ年事業の流れと各年度の目標

本ワークショップでは初年度に市民主体組織の必要性を共有し、2年目は市民主体組織の設置を目標としています。3年目はグループワークを通して試験的事業を設定し、着手することを目指しており、4年目は試験的事業を良好に運営し、最終的には、今までの試験的事業や組織の運営を総合的に評価・検証することで、自立した市民主体組織の継続的運営を目標としています。

※平成28年度 まちにぎワークショップの様子

27年度	市民主体組織の必要性を共有
28年度	市民主体組織のあり方の検討・設置
29年度	試験的事業の設定と着手
30年度	試験的事業の運営
31年度	試験的事業の事後評価

※まちにぎワークショップの5カ年の流れ

3 | 平成28年度 まちにぎワークショップの概要

◎ 目的

5カ年事業の2年目にあたる平成28年度のまちにぎワークショップでは、市民主体組織の設置に向け、組織のあり方を検討しました。組織が行う活動は平成27年度のワークショップの意見から、「緑化活動」「空き店舗活用」とし「その他」の3つの活動方針をグループワークのテーマとして設定し、組織の設置に向け議論しました。

◎ 流れ

第1回まちにぎワークショップでは、それぞれの活動方針の候補について短・中・長期で活動内容を検討しました。第2回では第1回の議論を参考に活動時に想定される課題とその解決策を予測し議論しました。第3回では活動方針の候補から1つ決定することを目指しましたが、「緑化活動」と「空き店舗活用」で意見が別れた結果になりました。第4回では、「緑化活動」に焦点をあて、花・木の種類・活動場所など活動の具体化とその活動を行った際に必要とされる人や組織を議論しました。

開催場所

行田市商工センター
4階 403研修室

調査目的

市民主体組織設置に向けた
組織の在り方の検討

開催回数

全4回

参加人数

延べ 41人

※平成28年度 まちにぎワークショップ概要

第1回

活動内容の検討

第2回

活動内容から想定される
“課題”と“解決策”の検討

第3回

活動方針の決定

第4回

活動内容の具体化

※平成28年度 まちにぎワークショップの流れ

7 | 市民・来訪者意識調査の結果まとめ

◎ 歴史的街路整備事業事前調査のまとめ

歴史的街路整備事業の実施にあたり、八幡通り・洋館通り周辺住民を対象にアンケートを行いました。結果、八幡通り・洋館通りの回答者ともに市民主体組織への協力意向が高いことがわかりました。

また、「市民主体組織への取り組み要望」や「優先する整備項目」などから回答者が両通りに対して必要としているまちづくりへの異なる傾向が明らかとなりました。

	八幡通り	洋館通り
市民主体組織への協力意向	約6割	約7割
市民主体組織への取組要望	交通の利便性の向上	商業・防犯・観光の充実
優先する整備項目	コミュニティ道路 歩行者の安全確保	修景整備 緑化整備

※歴史的街路整備事前調査のまとめ

◎ 来訪者意識調査のまとめ

結果、「観光に関する改善項目」では中心市街地エリアでは回遊性の向上を、その他ではソフト施策の充実を求める傾向がありました。一方まち並みでは自然に関する項目に満足している傾向がありました。これらのことから、各エリアの意向が異なることがわかり、満足度が高い項目を重点的に推進することにより、定住促進にも繋がると考えられます。

	中心市街地 エリア	市街地南 エリア	南エリア
観光に関する改善項目	移動手段の充実	博物館の 展示品の充実	観光案内・ 土産物屋の充実
まち並みに満足した項目	歴史ある まち並み	自然環境	公園や緑地の確保
再来訪意向	高い	高い	低い

※来訪者意識調査のまとめ

8 | 今後の取り組み

◎ 平成29年度まちにぎワークショップ

平成28年度のワークショップでは全4回のグループワークを通して、市民主体組織の設置に向けた組織のあり方について検討していただきました。

平成29年度では、平成28年度の検討結果をもとに、市民主体組織の設立と試験的事業の設定と着手を目標とします。

◎ 市民・来訪者意識調査

市民や来訪者を対象に行った意識調査にて得られた基礎情報や意見を、今後のワークショップやまちづくりへ活用することを目的に、平成27年度から平成31年度まで5カ年にわたり継続して意識調査を行います。

5カ年継続して行うことで、市民と来訪者のまちづくりに関する意識の変化を捉えることができます。

27年度

市民主体組織の必要性を共有

28年度

市民主体組織のあり方の検討・設置

29年度

試験的事業の設定と着手

30年度

試験的事業の運営

31年度

試験的事業の事後評価

※まちにぎワークショップの5カ年の流れ

みなさまのワークショップへのご参加を心よりお待ち申し上げます。

— 2 —

— 7 —

◎ 来訪者意識調査の概要

「浮き城まつり」「田んぼアート」「忍城・時代まつり」「2016ぎょうだ“夢”まつり」の4つのイベント来訪者を対象に、配布型アンケート調査を行いました。また、「さきたま史跡の博物館」「忍城・郷土博物館」「古代蓮会館」「観光情報館ぶらっと♪行田」「行田市観光案内所」「行田市バスターミナル観光案内所」の来訪者が多く訪れる施設において設置型アンケート調査を行いました。



※来訪者アンケートの調査風景

◎ 各観光エリアの来訪者の分析結果

来訪者の分析にあたり行田市駅・忍城址・水城公園を「中心市街地エリア」、さきたま古墳群・古代蓮の里を「市街地南エリア」、石田堤を「南エリア」と大別しました。

各観光エリアに対する観光が良くなる為に必要なものとまち並み評価項目について、各項目の距離感によって相対的な影響度を示すコレスポネンス分析を用いたところ、主要な観光施設が多い「中心市街地エリア」は改善項目として、行田市内を巡る交通手段の改善を求めていることがわかりました。まち並み満足度は、歴史あるまち並みや伝統文化・芸能の保存や活用などの評価が高いことがわかりました。

再来訪意向は、全てのエリアでまた来たいが80%以上と高い来訪意向を示しており行田市への観光意欲が伺えました。

◎ 来訪者の自由意見

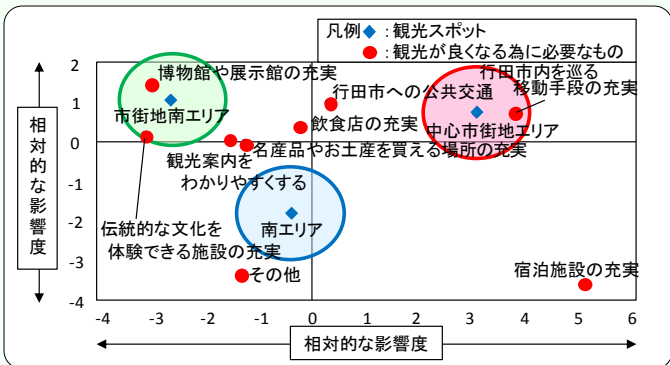
来訪者から寄せられた自由意見では、イベントに対する評価が高く、再来訪意向に結びついているものと思われます。一方で交通の便が悪いことや、PRが足りないなど、現状のまちづくりへの課題に対する意見も見受けられました。

- 田んぼアート、また来年も見に来たい
- 市内を巡る案内を充実させてほしい
- もう少し交通の便をよくしてほしい
- 歴史・文化をもっとPRしてほしい

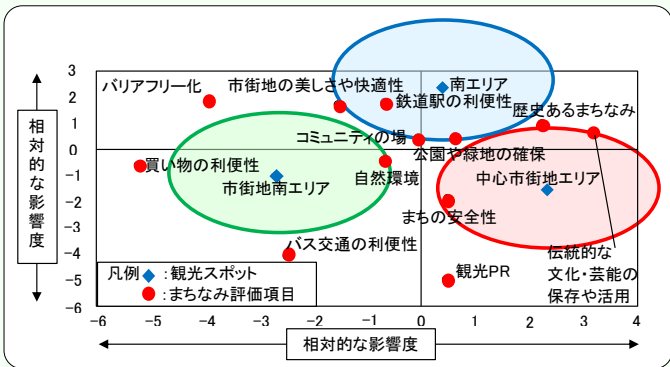
※アンケート用紙に寄せられた自由意見の一例

調査対象	行田市への来訪者	
調査方法	配布方 アンケート方式	設置型 アンケート方式
配布方法 回収方法	各観光施設にて 直接配布	各観光施設にて 調査用紙を設置
回収部数 配布部数	277部 531部	18部 150部
回収率	52.1%	12.0%

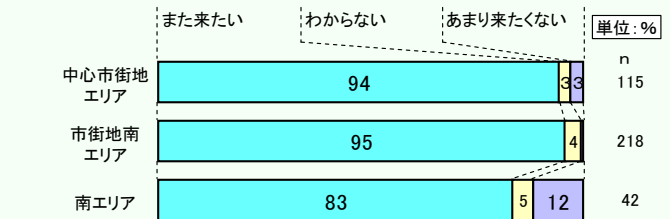
※行田市来訪者まちづくり意識調査の概要



※観光が良くなる為に必要なもの



※まち並み評価項目



※行田市への再来訪意向

◎ 第1回まちにぎワークショップ[平成28年9月26日(月)]

第1回ワークショップでは、市民主体組織の活動方針別にそれぞれの活動内容を短・中・長期で検討しました。

市民同士の協力体制を構築し、取り組み実績を積み上げていき、例として花や木を植えるなど簡易的なことから維持管理まで視野にいれ取り組む。その活動の中で市民だけでは解決不可能な場合は行政の協力を依頼する場合もあるなどの意見が得られました。

空き店舗の数や状態など現状把握から行い、所有者へ貸出協力を促し、最終的には企業や工場を誘致するといった、長期的な空き店舗活用を持続するなどの意見が得られました。

ゴミ拾いや短期的な内容が主に議論され、「緑化活動」「空き店舗活用」と合わせて活動できるような意見が得られました。

テーマ 市民主体組織の活動内容を検討		
緑化活動	短期	1.平成27年度に整備された北谷通り沿線に花を植える 2.地元市民がその周辺の市民を誘い、活性化を促す 3.人集めと地域住民とのコンセンサスを図る
	中期	1.行政に協力を要請し、道路脇の用水路に川の水または井戸水を流す
	長期	1.櫓の維持などは行政ではなく、市民が優先して行う 2.地域で花を育て管理し、花壇コンテストなどイベントを開催 3.バスターミナル周辺において緑化活動を行う
空き店舗活用	短期	1.活用できる店舗のリストアップを行う 2.空き店舗所有者に対し、貸し出しを融通してもらう
	中期	1.ボランティアと住民によって、店舗改装と合わせて庭などの敷地全体を整備する(例:緑地整備など)
	長期	1.FUJITSUの工場を誘致することを念頭に、市街化区域でまとまった土地を確保することは困難なことから、ミニ店舗による誘致を図る
その他	短期	1.ゴミ拾いを実施する

※第1回まちにぎワークショップ 意見一例

◎ 第2回まちにぎワークショップ[平成28年10月17日(月)]

第2回では、市民主体組織の活動から想定される課題とその解決策について検討しました。

多くの市民に緑化活動のコンセンサスを図る必要があり、意見交換会を開催するべきといった意見が得られました。また、協力を得るためには、活動員の導引方法を考える必要があり、その解決策の1つとして自治会や小・中学校と協力し、幼少期から緑化活動に携わってもらうといった意見もありました。

さらに長期的な目線では、街路樹の維持管理における負担軽減を目的として従来の落葉樹ではなく常緑樹を検討するなど、緑化時の工夫の意見が得られました。

空き店舗に関する情報が不十分であることに加え、出店希望者と貸主の間に存在する条件での隔たりが課題にあがりました。これらを解決するための方策として空き店舗のリストアップ、出店希望者向けの店舗見学会を行うなど、出店希望者と貸主のマッチングシステムの構築による入居促進を持続させるアイデアが多く見受けられました。

テーマ 市民主体組織の活動から“想定される課題”と“解決策”		
緑化活動	課題	1.市民間で緑化活動に関する意見の相違がある 2.活動者の意識や思いの共有を図る 3.市民の緑化活動に対する意識(とりわけ若年層)が低い 4.街路樹の整備には負担がある
	解決策	1.緑化活動に関する市民間の意見交換の場を設ける 2.緑化マップを作成する 3.自治体や小・中学校へ種植えや管理の依頼・検討を行う 4.落ち葉のでない樹木を植え、維持管理を容易にする
空き店舗活用	課題	1.出店希望者と貸主の間に条件面での隔たりがある 2.空き店舗に対する情報が不十分である 3.店舗個別で整備を行っても効果は薄い 4.短期的な活用では効果は薄い
	解決策	1.出店希望者と貸主の条件をマッチングさせるシステムを作る 2.店舗の基礎情報の細分化を図り把握する 3.長期的な活用も視野に入れたシステムを構築 4.複数人が使用可能な試用店舗を設ける
その他	課題	1.整備イメージが不鮮明 2.市内のイベントが乱立している 3.蓮華寺通りなどで軽トラ朝市等実績のあるイベントを行う 4.イベント開催にあたり、地元市民の協力を得る必要がある
	解決策	1.整備イメージ図を作成する 2.イベント情報を整理し、市民活動のイベントを情報発信する 3.歴史イベントの整理を行う 4.地元市民に、メリットを提示するなどして理解を求める

※第2回まちにぎワークショップ 意見一例

◎ 第3回まちにぎワークショップ[平成28年11月21日(月)]

第3回では、市民主体組織の活動方針の中から試験的事業の実施に向けた短期的な活動方針について検討しました。

緑化活動では、植える草花の色や高さ・植える範囲や場所などの緑化に関するルールづくりについて、「フラワーコンテスト」などのイベントづくりなどについて意見が得られました。

空き店舗活用では出店希望者と貸主の仲を取り持ち入居をサポートするなどの空き店舗の入居前に関する活動について、2つ目は空き店舗の入居者が継続して利用できるようにサポートするなどの入居後に関する活動について意見が得られました。

その他の意見としては忍城址の持つイメージやロケーションを活用した活動、観光地全体の案内の強化活動、フラベェやこぜにちゃんなどのゆるキャラの更なる活用案の模索などの意見が得られました。

テーマ 試験的事業の実施に向けた 市民主体組織の短期的な活動方針を定める		
緑化活動	短期	1.「フラワーフェスティバル」「フラワーコンテスト」を実施する 2.沿道一丈の短い花を小学生等が大人と一緒に植える 住宅街→手入れが容易な薔薇の生垣に整備 神社→桜を植える 3.震災で発生した廃材を利用してプランターを作成する 4.組合に花を分けてもらうよう協力してもらう 5.花の高さや種類などルールを定めて花を植える 6.忍城址～商工センター・行田市役所～りそな銀行沿道・循環バスのバス停・バスターミナルに季節毎の花を植栽
		1.若い人に入店してもらい、まちをにぎやかにしてもらう 2.成功を積み重ね、活動を発信し、周辺市民も呼び込む 3.入居後、特徴ある店舗として長く続くようサポートを行う 4.経営のスキルを持った方に組織活動に参加してもらう 5.空き店舗一覧を作成後、賃貸していない理由を整理し、改善可能な店舗については改善を促す 6.出店希望者と貸主の仲立ちを行い、入居させる 7.地元自治体が補助金を申請する
空き店舗活用	短期	
その他	短期	1.忍城址をイメージしたステージを作る 2.忍城址等のロケーションを利用し、コスプレタウンにする 3.観光地に案内板を設置する 4.フラベェやこぜにちゃんなどの、ゆるキャラストラップの作成をまちづくりに活用し、行道を活性化させる

※第3回まちにぎワークショップ 意見一例

◎ 第4回まちにぎワークショップ[平成28年12月12日(月)]

第4回では、幅広い年代がその活動に関わることができ、また、比較的容易に整備効果を得ることができる「緑化活動」にテーマを絞り、試験的に実施する具体的な事業内容及び必要となる組織・人について検討しました。

具体的活動では、緑化活動を行う場所や花の種類について主に議論されていましたが、一方では、事前に緑化のテーマを決めることや景観条例などに緑化のルールを定めるなど、ハード面だけでなく、ソフト面に関する意見も得られました。

必要とされる組織・人は、市民主体組織、サポート役として、専門的な知識を有した企業や法人の方々に参加してもらいたい、という意見も得られました。

テーマ 試験的事業の具体的内容と必要とされる組織・人		
緑化活動	具体的活動	1.水城公園をより花を楽しむ場所にする 2.事前にテーマを決めてから花を植える 3.見た目・管理のしやすさで樹種選定 4.コンテストのテーマ・評価方法・木の種類・場所等の決定 5.プロによるデザインを元に緑化 6.新町と本町において花を植え、予算をつける 7.南小学校の通りにイチヨウではなくキクを植える 8.店先にグリーンカーテン・プランターの設置 9.花や小さい木を植える 10.ハナミズキを植える 11.桜(街路樹)は新年度の象徴にもなるが、害虫が問題 12.全年代が楽しめて管理しやすいものを選定 13.デザインを重視、江戸時代のモノなど 14.みんなで楽しめる緑化活動に
		1.総務省、地域起こし協力隊の制度を利用 2.市民の有志を募る 3.清掃会社の人または市民に協力を得る 4.商店の人(花屋さん、酒屋さんなど)と市民 5.ものづくり大学の学生を定期的に提供してもらい、市民が維持管理をする 6.定年を迎えた人・ボランティア等 7.倫理法人会など法人の方たちと協力する 8.企業と連携してはじめるうちは活動を行う 9.緑化をする際は自治会の意見を聞きつつも主体は市民

※第4回まちにぎワークショップ 意見一例

5 | 歴史的街路整備事前調査結果(八幡通り・洋館通り)

◎ 歴史的街路整備事前調査の概要

「秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画」の一環である、歴史的街路整備事業を歴史的風情が感じられる八幡通り・洋館通り周辺において実施するにあたり、周辺住民に対し整備意向や市民参画意向などの抽出を目的に調査を行いました。

周辺住民の分析にあたり、自治会を八幡町・二本町・旭町を「八幡通り」、新町・本町を「洋館通り」、向町を「通りに隣接していない」と大別しました。



※アンケート用紙配布時の様子

◎ 歴史的街路整備事前調査の分析結果

回答者の両通りに対する優先的に行うべき整備項目について、各項目の距離感によって相対的な影響度を示すコレスポネンシス分析を用いたところ、八幡通りの回答者はコミュニティ道路の整備とその整備による歩行者の安全確保が必要と考えていることがわかりました。また、洋館通りの回答者は修景整備や緑化整備などの景観整備が必要と考えていることがわかりました。また両通りに面していない回答者は両通りに対して修景整備や歴史的街路整備などが必要と考えていることがわかりました。

両通りに市民主体組織を立ち上げた場合、八幡通り・洋館通りの回答者は積極的な参加意向があることがわかりました。

両通りに必要な市民主体組織のテーマは、八幡通りは交通や商業について、洋館通りは交通のほかに防災・防犯や観光について必要と考えていることがわかりました。

◎ 住民の皆様の自由意見

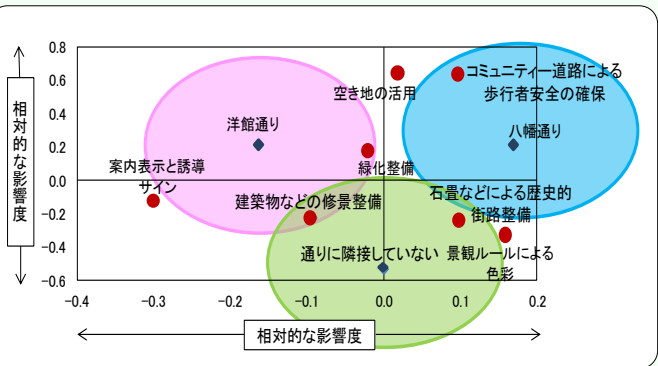
アンケート調査によって寄せられた意見では、行田市の現状の課題に対する具体的な提案が多く見受けられました。

- 蔵を利用して宿泊施設を造ってはどうか
- イベントを統一したほうがいい
- 旭町と行田の通学路を整備してほしい
- 可能なインフラ整備を行うことが先決
- 行田市の魅力を発信できる観光物産を始め、食事処を多く集めることが急務と思われる

※アンケート用紙に寄せられた自由意見の一例

調査対象	アンケート方式による調査	
調査方法	八幡通り・洋館通り 周辺住民	
配布方法 回収方法	在宅時	ヒアリング方式 直接回収
	不在時	ポスティング方式 郵送回収
回収部数 配布部数	63 部 151 部	
回収率	41.7%	

※市民まちづくり意識調査の概要



※アンケート回答者の両通りに対する優先整備項目

	話し合いに参加	代表者のサポートとして活動	代表者と参加しない	その他	n
八幡通り	64	12	28		25
洋館通り	75	8	8	17	12
通りに隣接していない	15	15	77		13

※アンケート回答者の市民主体組織への協力意向

	交通	商業	福祉	防災・防犯	観光	住民交流	住環境	その他	n
八幡通り	26	25	8	10	7	25	17		59
洋館通り	23	7	7	19	19	9	16		57

※アンケート回答者の必要な市民主体組織のテーマ